ヴァリスの戦士　優子の秘密の穴は男の子のジョイスティックで操作して！体験版

〇あらすじ
毎日仕事の繰り返しで生活が楽にならないで苦しい思いをしている男性の前に現れる、80 年代のゲームキャラの物語。

こんなはずじゃなかったと嘆く毎日。
仕事はうまくいかない。
生活するのがやっと。
夢を持って行きてきたのに、気づいたらそれなりの歳になっていた。
そんな毎日に嫌気がさすも、どうしていいのかわからない日々を送る男性がひとり。
そんなとき古いパソコンショップで昔好きだったゲーム、夢幻戦士ヴァリスを見つける。
懐かしさのあまり購入し起動してみるとそこには・・・なんと若い頃に好きだったゲームキャラ、夢幻戦士ヴァリスの麻生優子が現実の世界に現れる。
わたしをずっと応援してくれてありがとう！
男の子のジョイスティックで、優子を操作してもらえますか？

好きだったゲームキャラのヴァリスの戦士と出会うことにより毎日の仕事、生活の苦しみにもがんばろうと立ち直る男性、男の子の物語。日々がんばるみなさんの励みになれるとうれしいです！

〇キャラクター
主人公　心は永遠の男の子のままの純情な男性。昔すきだったゲームキャラの女の子に出会ったことをきっかけに不思議な体験をする。

麻生優子（あそうゆうこ）　80年代に人気があったアクションゲーム「夢幻戦士ヴァリス」のメインヒロイン。

●ストーリー
はぁ・・・ふぅ・・・はぁ・・・何度も出てしまうため息。
僕は一体なにをしているのだろう？今日も向かう派遣の場所。
やりたくもない作業をはじめる一日が今日もはじまる。・・・と、こんなことを毎日毎時間。
なんの代わり映えのない一日のはじまり。
いつから僕はこんなことになってしまったのだろう？
・・・もう忘れたか。
だいぶ前から、こんな感じだったもんな。はぁ・・・こんなはずじゃなかったのに。

・・・・・・
・・・
ふぅ、やっと仕事が終わった。
これだけ働いてたったの数千円。
しかも昼飯や交通費つかったから、見るも無残な収入。
毎日毎日いきるだけでせいいっぱい。
他人のせいにしたらいけないけど、どうしてこんな世の中になったんだろう？
・・・いや、僕自身の責任だよな。
でもそんな僕も若い時は夢いっぱいで自分の可能性に生き生きとしていたよな。
どんなしんどくて苦しいことでもはきはきと動いて。
早く大人になってもっと頑張りたい！
夢を叶えたい！そう思っていた。
しかし実際に大人になると・・・いつの間にか僕はそこそこの年齢に。
はぁ・・・こんなはずじゃ・・・

などと考えていたらいつの間にか家、というかボロアパートの前に。
これでもまだましな住まいか。
以前のとこはもっとボロかったから。
って、そんな最下位争いのこと考えても仕方ないか。
さて自分の部屋にはいろ・・・手紙が来てるな。
どれどれ？
請求書・税金の催促・・・もういやだ。
コロナや戦争、物価高。
そんな状態で苦しい生活をしているのにまだ僕から搾り取ろうというのか？
いやだ、いやだ、もういやだ！タッタッタッタタッタッタッタ

・・・・・・
・・・
はぁはぁはぁはぁ
気づけば僕は思わず走りだし、どこかに来てしまった。
ここは・・・どこだ？
・・・僕って馬鹿だよな。
逃げたってなにも変わらないのに。
ほんと自分が情けない。
恥ずかしい。
いったい僕、なにやってんだ・・・ろ・・・？
あれ？こんなところに人・・・女の子・・・？
それもどこか不思議な・・・あれは鎧？いや、
ビキニアーマー！んな馬鹿な！？
え・・・あの女の子、誰かに似ている？誰かというよりも、なに
かのキャラ？確か・・・ヴァリ・・・ス
そうだヴァリス！夢幻戦士ヴァリス！
ヴァリスといえば、麻生優子・・・優子ちゃん？似てる？似てるよね？コスプ
レ・・・だよね？でもなんでこんなところでコスプレ？
・・・って、よく見たら看板か。
そりゃそうだよね。
でも懐かしいな。
それにしてもそんな古い看板を置いてるなんて、古いお店かな？
トコトコトコトコ
さっき女の子がいたとこころに近づいてみる。
やっぱりお店、それもパソコンショップ。まだこんなお店があったのか！懐かし
い！
・・・せっかくだから入って見るか。

・・・・・・
・・・
お店の中に入ると失礼ながら、ものすごく古いと思った。
まるで僕が若い頃・・・そう80年代のような。
懐かしい。
昔はよくこういうパソコンショップを訪れていたなあ。
懐かしさに干渉にふけっていたら、ゲームソフトコーナーに。
そしてそこには、夢幻戦士ヴァリスが！それも、フロッピーディスク版が！フロッピーディスク！な、なつかしい！
そしてあまりの懐かしさに思わず欲しいと思ってしまう。
しかし動くパソコンがない。
そう思い探して見るとありました。
パソコンが。
それも定価で。
定価って・・・うん十万もする。
そんなにないし、そんな古いものをこの価格で売るお店って、時でも止まっているんだろうか？
と愚痴を言ってもしかたないので、とりあえず手に届くゲームソフトだけを買おうと考えるが、一万円近い価格を見て驚愕する。
どうしよう・・・？

・・・・・・
・・・
悩んでいてもしょうがないので僕はなけなしの一万円をコンビニのATMから取り出す。
そしてそのなけなしの一万円をパソコンのゲームソフト一本のために使う。
ああなけなしの一万円さようなら。
また会えるその時まで。

なけなし（と何度も言ってしまっているところに悲壮感が漂います）一万円とはさよならしたけど、夢幻戦士ヴァリス。
その思い出のゲームは買って帰ることに。
動くパソコン持ってない（買えない）から遊べないけどいいや。
思い出の我が若かりし頃の大切な宝物、無限戦士ヴァリス。
ひさしぶりに顔がホクホクと笑顔になっている自分に気づく。

・・・・・・
・・・

別に誰が待っているわけでもないさみしい我が部屋に帰ったけど、今日は不思議とあまりさみしいと思わなかった。
夢幻戦士ヴァリスのソフトが一緒だから。
麻生優子。
あの頃ほんとうに好きだったなあ。
クラスで好きな子ももちろんいたけど、その子とはまた違った憧れのアイドル。
箱を開けて見る。
マニュアルとフロッポーディスクが入ってる。
このマニュアルを眺めているだけでワクワクしてたなあ。
今でもワクワクできるなんて。
・・・昔はそのワクワクだけで自分自身の将来のこともワクワクできてたよな。
ほんと、僕はいつその自分自身のワクワクを忘れてしまったのだろう。
ヴァリス・・・優子・・・
せっかく買ったから遊んでみたいなあ。
でも動く当時にパソコンなんかない・・・し？いや待てよ。
まだ捨てていないからどこかにあるかも？
そう思い部屋の中を散策、特に押入れを探してみると、あったあったありました。
当時のパソコンが。
しかし喜んだのもつかの間、動くはずもなかった。
そりゃそうだよな。
ところがその時、突然ディスプレイにメッセージが。
「insert a disc」
インサートディスク？
フロッピーディスクを入れろってことかな？
よくわからないけど、夢幻戦士ヴァリスのディスクを入れる。
すると・・・なんと起動した！うそ！

・・・・・・
・・・
ディスプレイに映される光景。
それは僕が 10 代の時に見た夢幻戦士ヴァリスのゲーム画面。
感動！
おっと、見てるだけではなくゲームしなくちゃ。
キーボードを入力！ちゃんと
動く！もっと感動！
本当に懐かしいなあ。
でも難しい。
１面すらクリアできない(^^;

だけど、だけどだけど、懐かしくて楽しい！楽しい・・・よかったなあこの頃は。
まだ僕も若かった。
夢も希望も、すべてあって。
それが今は・・・
あれ？優子がなんだか悲しい顔しているような？って、勘違いだよね。
ゲームの中に映る優子に、僕はなにを考えているのか。
でもここだけの話、当時優子でいっぱいやったなあ。
って、なんだかてれるな。

そんな昔の若かりし頃のことを思い出していると、空気（？）を読んだのかディスプレイに表示されたもの。
それは優子の全身が映っているCGだった。
このCG、なかなかいい感じ。やっぱりかわいいなあ優子。
そんなことを思っていると、突然ゲームからこんな音声が流れる。

お願いわたしにチカラを与えて！
あなたのジョイスティックでわたしを導いて！

・・・今の声はなに？ヴァリスの
セリフ？ゲームから？
でもこんなセリフあったっけ？あなたのジョイスティック？
パソコンだからキーボードしかないけど？ジョイスティック買わないとダメなのかな？
でもそんなお金ないし・・・我ながら情けない・・・

お願い助けて！YUKO FC永久会長！

YUKO FC永久会長・・・
優子ファンクラブ・・・永久会長・・・それって・・・僕が昔、10代のときに名乗ってたペンネーム！
・・・偶然？
いやまさか・・・

するとヴァリスのゲームが映っているディスプレイから、麻生優子・ヴァリスの戦士がまるで某有名ホラー映画のように、飛び出してくる！

・・・え！
ゲームの優子が！

ゲームのヴァリスの戦士が！テレビか
ら出てきた！目の前にいる！！そんな
バカな！！！

ディスプレイから上半身が飛び出している麻生優子ことヴァリスの戦士は、にこりと微笑む。

うそ！
なにこれ？幽
霊！ばたん！

あ！大丈夫？倒れちゃった？
気絶・・・してる・・・どうしよう？
・・・確か男の人はここに・・・この場所にジョイスティックが・・・
ズボンをぬぎっ！下着をぬぎっ！ありました！
これが、これが男の子のジョイスティック！ごくり♪
この男の人のジョイスティックを操作すると・・・？もう一刻の猶予もない。
にぎっ！
確かこのジョイスティックにこう指を上下するといいはず？
シコシコ♪　シコシコ♪
あら！？大きく、立派になってきました！

あっ！
（な、なんだいったい？）

お目覚めになられましたか？よかったです！
あの・・・このまま指を上下していてよろしいでしょうか？

は、はいお願いします。（って、優子にこんなことされているって、これは夢だよね？）

はい、わかりました。
もう少し激しいほうがよろしいですか？

はい！お願いします。

それでは・・・超光速シコシコ
超光速シコシコ

あっ！
す、すごいっ！

苦しそうな表情ですが、大丈夫ですか？

はい！大丈夫です！
（ああもうダメ、いきそう）

あ、あの・・・なにか出てきたのですが？これ
は・・・お口で受け止めますね！超光速シコシコ
超光速ちゅぱちゅぱ

あぁ！そんなことされたら僕・・・！！！
い、いっちゃいますっ！どぴゅっ！

ゴクゴクゴクゴク
ぷはぁ。
わたしのお口の中でいっぱい出されましたね。
この命の源・・・永久会長さんのおかげでステージ１をクリア、できちゃいました！
ありがとうございます！

・・・女の子が奇妙なことを言う。
一体なにが・・・え？！
それは、夢幻戦士ヴァリスが映っているはずのディスプレイに、ステージ１のクリアの画面が。

そろそろ時間なので、わたし一旦もどりますね。
あの・・・また永久会長さんのジョイスティックを操作してもよろしいですか？

はい、もちろんです！

ありがとうございます！
あっ！もう時間です！それではまたこの次に！

あの！あなたは一体・・・・・・消えちゃった・・・
そうだ、ゲームの画面・・・あれ？
ゲームはおろか、パソコンも起動できない・・・なぜだろう？

まさか・・・あの娘に関係が・・・？
あの娘、ヴァリスの優子・・・なのかな？明日になればまた逢える、よね？
でもあの娘におしゃぶりされて・・・うっとりまさかこれ、夢だったり
して・・・？そんな、そんなことはないよね？

と、はてなマークばかりが頭の中を過ぎる中、とりあえず横になってみる。
あの娘はヴァリスの優子なのだろうか？ゲームの
中から出てきた？そんなことって・・・
そもそも現実だったんだろうか？やっぱり夢？
でも夢にしてはリアル過ぎるし。
どう・・・なんだろう？

・・・・・・
・・・
zzZ

がばっ！
やばい！寝すぎた！早く
早く！時間がない！早く
仕事に向かわなくちゃ！
ドタバタドタバタ
なんとか仕事に向かい、間一髪でギリギリ間に合う。

・・・・・・
・・・
つらくてしんどいだけの仕事。
今日も終了。
はあ、本当に疲れた。
・・・あの娘、今日も現れるのかな？
そんな夢みたいなことが、あるはず・・・
と、自分の部屋を開けると、そこには・・・！

お帰りなさい！お疲れでしょう。

そこには、あの娘が正座して頭を下げ、僕を出迎えてくれていた。
うそ！

お食事になさいますか？

それとも、優子になさいますか？

え！？
やっぱり昨日のは夢じゃない。
現実だったんだ！
いや、実はこれも夢・・・？
その僕の驚きをよそに、女の子、優子さんは笑顔で目がキラキラしている。
やばい答えなきゃ。
ああの・・・優子さんで・・・

優子でございますね！わかりました！
それでは・・・めくりっ！

えっ！？
スカートを僕の目の前で大きくめくり、下着を見せてくれている女の子。
それがヴァリスの戦士、麻生優子さんなのだろうか？そんなすごい光景が今、僕の目の前に。
思わず大きくなり、素直に反応してしまう僕の男の子の部分。あ！やはりこういうのがいいのですね？うれしいです！
それではこの大きくなったジョイスティック、わたしのお口でおしゃぶりしてもよろしいでしょうか？

じょ、ジョイスティック！？は、はい！お願いします！
そう僕が話すと女の子・・・優子さんは僕のものをまるで愛おしそうにおしゃぶりしてくれる。
その優子さんのお口の中。
それはすごく暖かく、やさしく僕のものを包んでくれているよう。

チュパチュパ♪ チュパチュパ
♪

どうでひゅか？でそうでひゅか？

はい、もうすぐで出そうです。
あの・・・指を使っていただいてもいいですか？

わかりまひたっ！シコシコ♪
チュパチュパ♪

あっ！あああああっ！あっ！
もうダメです！いきます！
でます！どぴゅっ！
どぴゅどぴゅっ！どぴゅどぴゅっ！

ゴクゴクゴクのゴク
ぷはぁ。
いっぱい飲んじゃいました！これ、本当においしいですね！
観てくださいゲームの画面を。
わたしは永久会長さんのジョイスティックから出た命の源を飲んだおかげでパワーアップ！
見事ステージをクリアです！ありがとうございます！

いえこちらこそありがとう・・・ございます。
（こんなかわいい娘に。ああ夢のよう）
・・・あの、あなたは本当に夢幻戦士ヴァリスの麻生優子さんなのですか？

はい！わたしは夢幻戦士ヴァリスの麻生優子、ヴァリスの戦士です！
でもずっとフロッピーディスクの中で眠っていたから、このようなかたちで表に出れるのを待っていました。
ところで今は1980何年でしょうか？

あの・・・今は2022年です。

に・・・にせんにじゅうにねん！
そ、そんなに時間が過ぎていたのですか・・・！！！
はぁ、そうなるともうわたしの役目など意味のないものになっているのですね。
時というのは残酷なものです。
でもまだよかったです。
こうして復活できたのですから。
そしておいしいものも飲ませていただきましたし。

顔が赤くなる僕。
あの・・・素朴な疑問なのですが、どうして僕にやさしくしてくれるのですか？

それは、永久会長さんがずっとわたしを応援していただいているからです。
今回もわたしを復活させてくれただけではなく、わたしの身体に命を注ぎ込んでいただけましたから。